

非出来事文の主語“一个N”について

野田 耕司

0. はじめに

1. 非出来事文としての“一个N”主語文
2. “一个N”主語非出来事文の類型とモダリティ性
3. “一个”のNに対する性格づけ
4. “一个N”主語のもたらす表現効果
5. まとめ

0. はじめに

本稿は次の例文のような「一+量詞+名詞」（以下、量詞を“个”で代表させ“一个N”と記す。なおNには名詞句も含む）を主語として、それが示す事物に対してそのあるべき姿や、普遍的な道理、社会的な価値観の傾向など¹⁾、広義の属性を述べた文（“一个N”主語非出来事文と称す）について、その文法的・意味的・表現（語用）的特徴を述べたものである。

- (1) 一个学生就应当刻苦学习。(张斌主编2010, 802)
（学生というものは骨身を惜しまずに勉学に励まねばならない）
- (2) 随着年岁的增长，一个人会慢慢成熟起来。(曹秀玲2005, 183)
（年齢とともに、人というものは次第に成熟していくものだ）

“一个N”の“一个”には文字通り「一つ」という意味の計数機能が具わって

るほかに、大河内1985が指摘したようにNで示される事物を類別的な概念から個別的な実体に変化させるという個体化機能が具わっているとされるが、しかし上記の例文の“一个”には計数機能も個体化機能も具わっているとは言い難く、“一个N”は類別的な概念、総称 (generic) として働いている²⁾。つまり、“一个”の付かない裸名詞のNと同様の働きをしているということであり、下記の例文は上記の例文と知的意味はほとんど変わらないとされる³⁾。

(3) 学生就应当刻苦学习。

(学生は骨身を惜しまずに勉学に励まねばならない)

(4) 随着年岁的增长, 人会慢慢成熟起来。

(年齢とともに、人は次第に成熟していくものだ)

中国語では通常、総称の事物は裸名詞を用いることから、総称を表す“一个N”は有標形式であり、“一个N”主語非出来事文には何らかの文法的・意味的・表現的特徴が存在するはずである。その表現的特徴として、陳振宇2017, 82はこの種の文には「事物に対する話者の主観的評価・態度が反映されている」⁴⁾と述べる。(3)(4)が客観的に属性を叙述する文だとすれば、(1)(2)は話者の主観的評価・態度がこもった主観的な属性叙述の文ということになる。それはちょうど日本語の属性叙述文「Nは～」と「Nというものは～」の違いに似る。だとするならば、なぜNに“一个”を付けることでそのようなニュアンスが生まれるのか、本来、個体標識であるはずの“一个”と話者の主観性との間にどのような結びつきがあるのか。本稿ではこの問題を中心に論じていきたい。

1. 非出来事文としての“一个N”主語文

曹秀玲2005, 183-192は“一个N”が一般的に主語として現れる文を“事态型”(例文(5)(6))と“事件型”(例文(7)(8))に分ける(例文は曹秀玲2005より)。

- (5) (=2) 随着年岁的增长, 一个人会慢慢成熟起来。
(年齢とともに、人というものは次第に成熟していくものだ)
- (6) 你想, 一个大学毕业生会那么天真幼稚么?
(ねえどう思う、大学出というものはあんなに幼稚なものかね)
- (7) 一个女孩子脸红红地站起来问了一句, 又迅速坐下消逝在人群中。
(女の子がひとり顔を赤らめて立ち上がり一言質問をすると、またすぐ腰を下ろして群衆にまぎれてしまった)
- (8) 这时, 一个文质彬彬的中年男子蹑手蹑脚走到主持人身边, 低声说了两句。
(この時、ひとりの上品そうな中年の紳士がそろりそろりと司会者に近づいてきて、低い声で二言三言話した)

曹秀玲2005, 183-192によれば、“事态型”は恒常的な事態・状況を表すもので、“一个N”ははっきりとした数量の事物を表しているのではなく、“任何一个”(いかなる一つ)の事物という意味あいでは総称(generic)として機能しているとする。一方、“事件型”は出来事(event)を表しており、“一个N”の示す事物の実体性(個性)を高めるために、主語や述語(“谓语”)を複雑形式にして具体化する必要があるという。よって“事件型”には“*一个人来了”が非文であるように文法的な制約が存在するが⁵⁾、“事态型”の“一个N”は“事件型”に比べれば比較的自由に主語の位置に現れることができるという。

益岡2021は日本語の文を「属性叙述文」(property predication)と「事象叙述文」(event predication)に分けているが、“事态型”は「所与の対象が有する属性(property)を叙述する」(益岡2021, 3)属性叙述文と共通する部分があり⁶⁾、“事件型”は「特定の時空間に出現する出来事(event)を叙述する」(同)事象叙述文に相当すると言える。

更に益岡2021によれば、属性叙述は「話し手の思考のなかで作り出される事態であるという点において主観的な叙述と言える」(益岡2021, 3)のに対し、事象

叙述は「話し手が事象の観察者（知覚者）であるという点において客観的な叙述と言える」(同)と述べているが、“事态型”の(5)(6)が主観的な叙述であるのに対し、“事件型”の(7)(8)は客観的な叙述となっている。以下、曹秀玲2005の“事态型”、“事件型”に属する“一个N”主語文をそれぞれ“一个N”主語非出来事文、“一个N”主語出来事文と称することにする。

上記の例文を見ると、出来事文の主語“一个N”が現実世界に現れた個別の実体（個体）であることは疑いないが、非出来事文の主語“一个N”は個体というより、やはり類（総称）と理解されるべきものであり、日本語に訳すならちょうど「～というもの」に相当する。

日本語の属性叙述文における主語と述語の関係は、「対象表示部分（主題）＋属性表示部分（解説）」(益岡2021, 17)の関係であり、“一个N”主語非出来事文においてもその関係は顕著で、刘丹青2002 (2014, 621)、张斌主编2010, 802では総称を表す“一个N”主語は、主語と述語の間にポーズを置いたり、語気助詞を置いたりできることから主題機能を有すると指摘している（例文は张斌主编2010より）。

(9) 一个学生就应当刻苦学习。

(学生というものは骨身を惜しまずに勉学に励まねばならない)

→ 一个学生，就应当刻苦学习。

(学生というものは、骨身を惜しまずに勉学に励まねばならない)

→ 一个学生么，就应当刻苦学习。

(学生というものはだね、骨身を惜しまずに勉学に励まねばならない)

一方、刘丹青2002 (2014, 621)、张斌主编2010, 802では本稿でいうところの“一个N”主語出来事文は主題機能を有していないと述べる（例文は张斌主编2010より）。

- (10) 一个学生走了过来。
 (学生が一人歩いてきた)
 → * 一个学生, 走了过来。
 → * 一个学生么, 走了过来。

2. “一个N”主語非出来事文の類型とモダリティ性

曹秀玲2005,183-188は“事态型”すなわち“一个N”主語非出来事文を文法的特徴から次のような類型としてまとめている（例文は曹秀玲2005より。一部誤記と思われる箇所などを改めた）。

【A】義務や道理（原文は“伦理”）などを表すモダリティ成分が用いられる。

- (11) 一个救死扶伤的医生怎么能怕自己传染上疾病？
 (献身的に人命を救う医師がどうして自分が病気に感染することを恐れようか)
- (12) 在我的笔下，一个人可以生，可以死，不管他有什么地位！
 (私の筆の力で、人は生かすことも死なすこともできる。たとえどのような地位にあろうとも)

【B】頻度を表す副詞性の成分が用いられる。

- (13) 有时一个女人远看很美，颇为可爱，走近了细瞧，才知道全是假的。
 (時に、女性というものは遠くから見ると美しくてすこぶる可愛くても、近づいてよく見ると全く違っているのに気づくことがある)
- (14) 一个孤独，没有朋友，单身居住的人岂不是每时每刻都要沾一桩莫名其妙杀人案的嫌疑？
 (孤独で友達がいない独り身の人間というものは、いつでも不可解な殺人事件の容疑をかけられるものではなかろうか)

【C】述語動詞が関係動詞である。

- (15) 一个得力的太太, 就如同一本长期存款的折子。老是你自己的, 而且每日有利息。
(有能な妻というものは、まるで長期預金の通帳のようなものだ。常にあなた自身のものであり、更には毎日の利息もついてくる。)
- (16) 一碗菜好比一支乐曲, 也是一种一贯的多元, 调和滋味, 使相反的成分相成相济, 变作可分不可离的综合。⁷⁾
(料理というものは楽曲のようなもので、一貫して多元的で、味を調合し、相反する分子を互いに補い合わせた分離しようにも分離できない総合体である)

上記に加えて、曹秀玲2005, 183-188は次のような特徴を具えることもであると述べる (例文は曹秀玲2005より)。

【a】文中に“你想”、“你看”などの挿入句が現れる。

- (17) (= (6)) 你想, 一个大学毕业生会那么天真幼稚么?
(ねえどう思う、大学出というものはあんなに幼稚なものかね)
- (18) 你看, 一位演员的成功多么不容易啊!⁸⁾
(ねえ、俳優が成功するというのはなんて難しいものなんだろう)

【b】複文の形式をとる。

- (19) 你想想吧, 一个女人到四十要没有了诱惑的能力, 还活个什么劲儿!
(考えてもみなさい、女が四十になって誘惑する能力を失ってしまったとしたら、生きていて何の張り合いがあるというの)
- (20) 如果一个人吃饱了没事干, 他怎么消磨时间最好?
(人は食うには困らなくてもすることが何もないとしたら、どのように時間をつぶすのが最もよいだろうか)

陈振宇2017, 81-84ではこの種の文は“通指 (generic) 句”、すなわち総称文に

属し、また話者の主観的評価・態度を表した文であるとして次のような類型を示す（例文は陈振宇2017より）。

【A】 道理・義務、能力、話者の認識を表す文

- (21) 一个凡人不能了解神的意志。
(凡人というものは神の意を理解できないものだ)
- (22) 一位真正的天使总是会为你打开大门。
(真の天使は人のためにいつも門を開けてくれるはずだ)

【B】 条件複文⁹⁾

- (23) 一个男人只有和女人在一起，才需要表现他的男子汉气概。
(男というものは女と一緒にの時にこそ、男の気概を示さなければいけない)
- (24) 一个人一旦被邪教所迷惑，就会六亲不认，完全丧失理智。
(人はひとたび邪教に惑わされると、親族さえ他人と見なし、完全に理性を失ってしまう)

【C】 反語文、感嘆文

- (25) 一位风华正茂的青年怎么能像个小老头似的整天唉声叹气！
(前途有望な若者が若年寄のように一日中溜息ばかりついていてどうするのか)
- (26) 一个黑暗的时代对普通人来说是多么可怕啊！连生命都没有保障！
(暗黒の時代というものは普通の人々にとってどんなに恐ろしいものであろうか。命さえ保障されないのだから)

上記は基本的に曹秀玲2005の示した類型と重なり（(22)には頻度を表す副詞“总是”、(25)には関係動詞“像”が用いられており、それぞれ曹秀玲2005のB・Cにも相当）、全て助動詞や語気助詞のようなモダリティ成分を伴うなどして、話者の主観的な評価・態度を表した文である。反語文や感嘆文をとるという点も話者の主観

的態度と大いに関わっている。条件複文・仮定複文についても、“一个N”は従属節の主語の位置に現れているが、主節の主語としても機能し、ある条件・仮定下では「～しなければならない」「～になり得る」などと話者の認識が示されている。

従って、陳振宇2017, 83によれば話者の主観的評価・態度を反映していない客観的・中立的な報告・叙述にはこの種の“一个N”主語は用いることができず、Nを単独で用いるとして次のような例文を挙げる（例文は陳振宇2017より）。

(27) a 猴子是灵长类动物。

(サルは霊長類である)

b *一只猴子是灵长类动物。

(28) a 中国的寺庙喜欢建在风景优美的地方。

(中国の寺院は風光明媚な場所に好んで建てられる)

b *一座中国的寺庙喜欢建在风景优美的地方。

上記の例文には話者の主観的態度を表わす助動詞などのモダリティ成分が用いられておらず、命題となる事実を客観的に叙述した文となっている。次の例文もモダリティ成分を一切用いていない、“是”を述語動詞とする判断文であり、陳振宇2017, 83-84によればbはやはり不自然な文とされるが、cのように文を補えば、すなわち話者の主観が示された文脈があれば、“一个N”主語も生起可能であるとす（例文は陳振宇2017より）¹⁰⁾。

(29) a 小学生是未成年人。

(小学生は未成年である)

b ??一个小学生是未成年人。

c 一个小学生还是未成年人，离不开父母的呵护。

(小学生というものはやはり未成年であるから、親の庇護から離れることができない)

上記の例文のような非出来事文におけるN主語と“一个N”主語の生起状況は日本語の属性叙述文における「Nは～」と「Nというものは～」の場合と似通っている。

- (30) a サルは霊長類である。
 b ??サルというものは霊長類である。
- (31) a 中国の寺院は風光明媚な場所に好んで建てられる。
 b ?中国の寺院というものは風光明媚な場所に好んで建てられる。
- (32) a 小学生は未成年である。
 b ??小学生というものは未成年である。
 c 小学生というものはやはり未成年であるから、親の庇護から離れることができない。

「Nというもの(は)」も“一个N”(主語)と同様、客観的な事物ではなく、話者の頭の中であって話者がイメージする主観的な事物であることが上記の例文からわかる¹¹⁾。

また、(31)bに次のように本性、当然、当為などを表す「ものだ」を加えると容認度が上がるのも、話者の判断であることが「ものだ」によって明示されるからである¹²⁾。

- (33) 中国の寺院というものは風光明媚な場所に好んで建てられるものだ。

「ものだ」のほかにも、話者の態度を表すモダリティ成分である「なければならぬ」「べきだ」を用いた場合も文の容認度が高まり、中国語においても陈振宇 2017, 83に指摘があるように“应该”を用いるとやはり容認度が上がる。

- (34) a ?中国の寺院というものは風光明媚な場所に建てられる。
 b 中国の寺院というものは風光明媚な場所に建てられ {なければならぬ／

るべきだ}。

- (35) 一座中国的寺庙就应该建在风景优美的地方。(陈振宇2017)

(中国の寺院というものは風光明媚な場所に建てられ {なければならぬ／
るべきだ})

このように“一个N”主語非出来事文とNを単独で用いるN主語非出来事文との違いは、話者の主観を述べた文か否かであり、前者の文(“事态型”)に“你想”、“你看”などの挿入句が加わることで、文の容認度が高まる」という曹秀玲2005, 186の指摘¹³⁾は実に示唆的である。話者自らの認識を示すにあたって、聞き手の注意をひいたり、聞き手の考えや同意を求めたりしているわけである。当然ながら、“我想／认为”を挿入句とするものもコーパス上には多い。

- (36) 莫言：我想，一个作家，面对着各种各样的事件，总是要发言的。(BCC：大江健三郎〈二十一世纪的对话〉《我在暧昧的日本》)

(莫言：思うに、作家というものは様々な出来事について、何か発言しなければならないものです)

- (37) 我认为，一个作家必须要有生活基地，每年应该踏踏实实地蹲几个月，在自己熟悉的生活领域中进行体验、感受。(BCC：人民日报1984年5月14日)

(私が思うに、作家というものは生活拠点を必ず持つべきで、毎年数か月しっかり腰を据えて、自ら熟知する生活環境の中で体験し感じるべきである)

ここで述べられている主観というのは普遍的な道理や社会的な価値観の傾向を反映したものもあるが、話者個人の価値観に基づく認識もあり、女性や男性を“一个N”主語とした先に挙げた例文などは話者の思い込みとも言えそうな認識となっている。

このように助動詞などモダリティ成分を含む非出来事文における話者の主観性

の有無（あるいは主観性の程度の強弱）は、先の(1)(2)と(3)(4)のような場合、主語Nに“一个”を付すか否かによるところが関係していると言えるわけであるが、それではなぜ、“一个”を付すことでNが表す事物が客観的な事物（概念）から話者がイメージする主観的な事物へと意味あいが変化するのであろうか。

3. “一个”のNに対する性格づけ

なぜ、“一个”を付すことでNの表す客観的な事物が話者のイメージする主観的な事物へと意味あいが変化するのか。この問いの答えのヒントとなるのが、次の例文のような非出来事文、特に“是”を述語動詞とする判断文において目的語位置に現れる単独使用のNと“一个N”との違いである。

- (38) a 他是学生。
 b 他是一个学生。

橋本2003は判断文におけるNと“一个N”の違いについて、話し手・書き手の主観のありようといった角度、すなわち語用論的・表現論的観点からのアプローチを行い、「X是N」は「客観的な事実として述べる」文であるのに対して、「X是（一）个N」は「話し手・書き手が主観的に判断・評価し、述べる」文であり、また前者の文に使用されているNは「類全体をその指示範囲とする類名」であるのに対し、後者の文の“一个N”は「話し手・書き手の主観的イメージを持ったモデル」であると述べる。これにより、橋本2003は次の日本語文の「小学生」の中国語訳の相違は翻訳者の解釈の仕方が反映された結果であるとする（例文は橋本2003より）。

- (39) a キーを叩けば文字の出てくる、目の前のこの不思議な機械が、まだ小学生だったボクにとって興味の対象とならないはずがなかった。
 b 眼前这个奇异的小机器，对于当时还是小学生的我来说，不能不说是一个惹

人喜爱的玩物。

c 眼前這臺不可思議的機器，對於還是個小學生的我，當然充滿了吸引力。

橋本2003によれば、「(b)の翻訳者は『小学生だった』の部分を、『大学生、あるいは社会人ではなく、小学生』という類レベルの視点から客観的に解釈、『類別』し、(c)の翻訳者は『何でも新しいものに興味を持つ』というような小学生からイメージされる属性でもって解釈、『叙述』した」と述べる。

また、“像”を述語動詞とする次の比喩文における目的語“人”と“(一)個人”についても、橋本2003によれば後者は「内的な属性」(ここでは「より抽象的な人間性」)を具えた話し手・書き手の主観的イメージの中にあるモデルとしての「ひと」であるとする(例文は橋本2003より)。“ (一)個人”はヒトかサルかといった類別レベルの総称ではなく(その場合はむしろ“人”)、従って“(一)個人”を用いたbは、特に内的的に「人のようでない」「人間らしくない」すなわち「人でなしだ」という意味あいでもって叙述されることが多い。

(40) a 他不像人。

b 他不像个人。

この橋本2003の考えに基づくならば、次の例文の“(一)個人”そして“(一)个党员”も同様に、単なる類としての「ヒト」「(共産)党员」ではなく、話者のイメージするモデルとしての「ひと」「(共産)党员」であると言えよう。

(41) 还像个人吗？(白水社：日本語訳も)

(それでも人間か！)

(42) 如果在这种关头不挺身而出，哪还像个党员，像个人吗？(BCC：柳建伟〈天凉好个秋〉)

(このような瀬戸際で勇敢に立ち向かわないならば、どうして党员であり、

人であると言えるか)

上の二つの例文の“（一）个人”は話者が主観的にイメージする内面的な属性である「人間らしさ」を具えた「ひと」であったが、外見についても話者のイメージする外面的な属性の「人間らしさ」というものがあり、次の例文の“（一）个人”がまさにそれである。

- (43) 从矿井下走出来的时候全身是泥巴，又脏又虚弱，简直不像个人。(BCC：人民日报1963年6月13日)

(鉱山の立て坑から出てきた時、全身泥まみれで、汚れて衰弱していて、まるで人間のように見えなかった)

- (44) 我问他：“这几天出了什么事，家里的事你一点也不管，瘦得不像个人。”(BCC：人民日报1954年7月22日)

(私は彼に尋ねた。「ここ数日何かあったのかい、家のことはほったらかしだし、人間に見えないほど痩せてしまっているし」)

一方、次の例文のように類別が問題とされている文脈では、話者の主観的イメージの中の「ひと」ではなく客観的・中立的な「ヒト」という意味合いで裸名詞の“人”が用いられる傾向がある。

- (45) 村长颤巍巍的走向前一步，问道：“你——到底是人还——是蛇精？”“我不像人吗？”云风反问他。(BCC：梅贝尔〈一缕相思绕君心〉)

(村長はよろよろと一歩前に歩み出ると尋ねた。「お前さんはそもそも人間かの、それとも蛇の化け物かの」雲風は村長に「人間に見えませんか」と問い返した)

“一个N”が話者の主観的イメージを具えたモデルであることの根拠としては、

次のような言語事象も挙げられる。張伯江2016, 144、陳振宇2017, 79によれば、人を表すNが判断文の目的語として生起する場合、“一个”を加えないとやや不自然な文になるものが存在するようである（例文(47)(48)は張伯江2016、陳振宇2017より）。

(46) a 他是学生。(大河内1985 (1997, 59))

(彼は学生だ。)

b 他是一个学生 (, 还很穷 / 你不能叫去干活儿)。(大河内1985 (1997, 59))

(彼は学生だ [から、まだ貧しい / 仕事をさせることはできない]。)

(47) a ?他是善人。

b 他是一个善人。

(彼は善良な人です)

(48) a ?他是马大哈。

b 他是个马大哈。

(彼はそそっかしい人です)

(46)の“学生”の場合、“一个”を加えなくても単文として成立し（例えば“他做什么?” [彼は何をしているの] という問いに対する返答）、加えた場合は周知のとおり単文として言い切るには据わりが悪く、通常、後に主語名詞句について説明する文が続く¹⁴⁾。しかし、(47)(48)の“善人”“马大哈”は“一个”の付加が半ば義務的とも言える。張伯江2016, 144、陳振宇2017, 79にはこのタイプのNとして“善人”“马大哈”の他に次のものが挙げられている。

(49) a 严师 慈父 情种 智者 名将

b 恶棍 歹徒 色鬼 懒虫 懦夫

aは褒義を、bは貶義を具える人を表すNである。“学生”や“人”のように語彙の意味として褒貶義を具えないニュートラル（中立）なNではなく、明らかに

話者による主観的判断、すなわち人に対する価値づけがなされたNである。この種のNは“学生”“教師”“将军”のような身分、職業、職階など、上位概念となる類名ではなく、例えば“严师”（厳しい先生）や“名将”であれば主観を反映した価値基準などによって分類された“教師”“将军”の下位概念であり、“情种”（情け深い人）、“懦夫”（臆病者）なども人の下位概念である。

上位概念である“学生”“教師”“将军”などは“一个”を伴わずに「客観的な事実として述べる文」（橋本2003）である「X是N」の目的語に用いることができるのに対して、“马大哈”“严师”“名将”など価値づけ、性格づけがなされた下位概念としてのNは「X是N」には些か生起し難く、“一个”を伴って「話し手・書き手が主観的に判断・評価し、述べる文」（橋本2003）である「X是（一）个N」に生起し易いと言えそうである¹⁵⁾。

橋本2014, 27-45（第2章）では「X是（一）个N」を「いったい何者であるか」を言う文と指摘しているが、まさにその通りで、(50)の問いに対する返答として語彙的に性格づけがなされていないNを用いたbはやや不自然であり¹⁶⁾、“学生”よりは性格づけられている“工读生”（苦学生）を用いたcの方がまだ適格性が高い。dにおいては何ら問題がなかろう。「定语（連体修飾語）+ N」の名詞句に“一个”が付きやすいのは中国語を非母語とする者でも経験的に知っている事実であるが、これもNに対する性格づけがなされているという理由によるものと考えることができる。また、「何者であるか」の返答とは言い難い(50)bも主語“他”（＝“（一）个学生”）について説明する文が続けば、(51)aのように適切な返事になる。(51)bも(50)cに比べれば更に適格性が高まっていると言えよう。つまり後続の文がNに対する性格づけを行っている」と解釈できるわけである。

(50) 他是{个什么样的人／怎样一个人}?

（彼はどんな人ですか）

a 他是个老实人。

（彼はおとなしい人です）

- b ? 他是个学生。
(? 彼は学生です)
- c 他是个工读生。
(彼は苦学生です)
- d 他是个很用功的学生。
(彼はとても勉強熱心な学生です)

(51) 他是{个什么样的人／怎样一个人}?

(彼はどんな人ですか)

- a 他是个学生，很用功。
(彼は学生で、とても勉強熱心です)
- b 他是个工读生，很用功。
(彼は苦学生で、とても勉強熱心です)

性格づけはNで示される事物の個別化につながる。橋本2014は判断文における目的語Nの“一个”使用不使用について次のように述べている。

「“是”字文で“（一）个”が入るか否かは、話し手の認識、事態との距離のとり方（より一般的にとらえるか、個別的なものにとらえるか）に、深くかかわっている」(橋本2014, 182)

「“（一）个”の有無は、話し手が“是”字文で表そうとしていることに対して、どの程度イメージできるか、どの程度現実世界のものとして描こうとするかに依拠するということだ。つまり、実体のあるものとしてイメージできるものであれば、“（一）个”を生起させるのである」(橋本2014, 183)

4. “一个N”主語のもたらす表現効果

ここで先の問いに戻れば、“一个N”主語非出来事文において、“一个”を付すことでNが表す事物が客観的な事物（概念）から話者がイメージする主観的な

事物へと意味あいが変化する理由は、やはり“一个”が本来的に具える個別化機能にあると言えそうである。ただし、非出来事文の主語“一个N”と判断文の目的語“一个N”とは個別性の性格が異なる。すなわち個別化される対象が現実世界や想像の世界において特定可能な実体かどうかという違いである。

次の判断文の場合、その目的語“一个N”は主語に位置する特定の人物のことを指しており、また後節の三人称代詞（三人称代名詞）もそれぞれ「(作家である) デニケン」「(社会活動家で作家でもある) 中村龍夫 (氏)」を指していることから、“一个N”が指示しているものは個別の実体、すなわち個体 (individual) であると言える。

(52) 登尼肯是一个作家，他写了一本书，谈到我们这个世界上有些未解开的谜，他认为这些奥秘与地球以外的生命有关。(BCC：三毛《万水千山走遍》)

(〔エーリッヒ・フォン・〕デニケンは作家で、彼は著書で、私たちの住んでいるこの世界には未解明の謎があることに触れ、これらの神秘は地球外生命体と関係があると考えている)

(53) 中村龙夫不仅是个社会活动家，而且是个作家，他的大量著作主要是论述中日文化交流，反映人民友好往来，描写中国作家传略的文字。(BCC)

(中村龍夫氏は社会活動家でありまた作家でもあり、彼は数多くの著書で主に中日の文化交流について論述し、人々の友好的な往來を記述し、更に中国の作家の略伝も書いている)

一方、非出来事文の主語“一个N”は次の例文のように三人称代詞による照応が可能であるものの、特定の人物（実体）を指しているわけではなく、類に属する任意の「作家」「男」を指しており、判断文の目的語“一个N”と同種の個体とは言えない。やはり総称と解釈されるべきものである。

(54) 我想，一个作家在写长篇时，不管他是否有写作提纲，总是摸索着向前。

(BCC：人民日报1985年12月23日)

(作家というものは長編を書く時には作品の構想があろうとなかろうと、常に模索しながら前へ向かっていくものだと思う)

(55) (= (23)) 一个男人只有和女人在一起，才需要表现他的男子汉气概。

(男というものは女と一緒にの時にこそ、男の気概を示さなければいけない)

しかしながら、N主語非出来事文との対比から考察すると、“一个”の具える個別化機能が“一个N”主語非出来事文にある種の表現上の効果をもたらしていることは確かである。それは、“一个”を付けることによってNで示される類の内部の集合から取り出した代表をモデルとして聞き手の眼前に提示し、具体性・現実性（リアリティ）を持たせるという表現効果である。

次の例文は中国人が海外のオペラの舞台で活躍することについて、話者の認識を反語形式の成語を用いて示した文であるが、文中には個別具体的な場所が示され、そこで行われる行為・結果も具体的に示されている。このような個別具体的な場面に現れる「登場人物」たる動作主は橋本2003の言葉を借りるならば、「類全体をその指示範囲とする類名」であるNよりは「話し手・書き手の主観的イメージを持ったモデル」である“一个N”の方が、臨場感が増しよりふさわしいと言えよう。

(56) 我想，一个中国人，要在国外的西洋歌剧舞台上争得一席之地，赢得西方爱好者的喜爱和尊敬，谈何容易。(BCC：人民日报1999年4月3日)

(中国人が海外のオペラの舞台で何とかして役を勝ち取り、西洋の愛好家に認められ尊敬されるのは、そうたやすいことではないと思う)

また、次の例文では假定複文の形式をとって、話者の考える、外国人が東京を知るための最適な方法が個別具体的な行動として述べられているが、その行動をとる動作主が外国人であることを考えると“一个N”を用いた方が概念的な「外国人」ではなく、個別的な「外国人」であることが表現上イメージしやすくなる。

- (57) 我想, 一个外国人要真正了解东京, 最好的办法就是在这“不宜使用”的时刻, 加入到东京人的行列中, 在这地下世界里做一番旅行。(CCL: 人民日报1995年3月)

(外国人が本当に東京を知ろうとするならば、その最適な方法はこの「使用に適さない」時刻〔地下鉄のラッシュアワー〕に、東京の人たちの列に加わり、この地下世界を一度旅行してみることだと思う)

曹秀玲2005にも指摘があるように“一个N”主語非出来事文は複文の形式をとることが多いが¹⁷⁾、“一个N”主語が生起する仮定節や条件節にも個別具体的な場面が想定可能であり、表現上リアリティを持たせるにはこの場合、やはりNよりも“一个N”の方が効果的であると言える。次の例文では、仮定や条件として個別の時・行為が表現されている。

- (58) 所以我想, 一个儿童如果从小读了很多童话, 将来做起买卖来, 也许会更具有想象力。(BCC: 人民日报1988年12月13日)

(よって私が思うに、児童が幼い頃から童話をたくさん読んだならば、将来ビジネスをする際に、想像力がいっそう豊かになるかもしれない)

- (59) 我认为, 一个人在年轻时无论为何原因摔了跤, 都是好事。骨头挺嫩, 摔不坏什么, 可以总结经验, 爬起来再干。(CCL)

(人は若い頃にどのような原因で転ぼうとも、それは全てよいことだと思う。「骨」が柔らかいから、そうたいして悪くはならない。経験を総括して這い上がりやり直すことができる。)

但し、上記の複文において“一个N”主語が使用されているのはあくまでも話者による事象のとらえ方、表現の仕方が反映されているのであって、複文であれば必ず“一个N”主語が生起するというものではない。非出来事文における仮定・条件節にN主語が生起するものももちろん多く、特に法律の条文や、科学的な

研究結果、自然法則など客観的事象を述べた複文では次の例文のように従属節にN主語が現れる傾向がある¹⁸⁾。

(60) 从2月1日《中华人民共和国外国人入境、出境管理法》实行之日起，外国人只要持有效签证或者居留证件即可前往。(BCC：人民日报1986年1月31日)

(2月1日に『中華人民共和國外国人出入國管理法』が施行された後、外国人は有効ビザあるいは居留証を所有してさえいれば〔對外開放地域に〕赴くことができる)

(61) 相关的儿童营养研究成果也证实，儿童如果从小坚持喝牛奶，其身高可以比不喝牛奶的儿童高5厘米左右。(CCL：沈倩《生活健康密码》)

(関連する児童の栄養についての研究成果も証明しているが、児童が幼い頃から牛乳を飲み続けければ、その身長は飲まない児童よりも約5cm高くなる)

(62) 大家知道，水比空气散热要快，因为水温比气温要低，人只要接近水就会感到冷，皮肤末梢神经就会把冷觉传入大脑皮层中枢神经，中枢神经再下达命令使毛孔紧闭。(BCC：人民日报1961年6月4日)

(周知の通り、水は空気よりも放熱の速度がはやい。水温は気温よりも低いため、人は水に近づくだけで冷たいと感じ、皮膚の末梢神経は冷覚を大脳皮質の中枢神経に伝え、中枢神経は毛穴を閉じるよう命令を伝達する)

(61)は(58)と同様、仮定節に児童が幼い頃から特定の行為を行えば、どのような結果が得られるかを述べた文であるが、(58)は“我想”という挿入句があることからわかるように話者個人の主観的な見解であり、一方(61)は研究結果に基づく客観的な事実である。

“一个N”主語非出来事文が複文の形式をとることが多い理由としては、この種の文が話者の主観的な見解を述べた文であるという点がやはり大きく関わっていると見えよう。例えば、(19)(23)(58)(59)のようにその仮定・条件節が表わす状況は話者が想定したものであり、その状況下における結論もまた話者の認識による主観

的なものである。例えば(59)では「若いころの挫折」を話者は良いことだと認識している。このような主観を述べた複文には、話者の主観的イメージを反映したモデルとして性格づけがなされた“一个N”の方が表現上はふさわしいと言える。特に“一个女人”“一个男人”を主語に用いた(19)(23)の場合は、“一个N”が文全体に話者の主観的価値観を醸し出すのにふさわしい表現効果を生んでいる。

李劲荣2013によれば、“一个N”主語非出来事文が用いられる文章のスタイルは“议论语体”（議論性の文体）、つまり話者の見解・意見を述べる文体であり、その語用的意味は“宣传教育”（宣伝教育）、すなわち人に対する啓蒙・教化であるとする。一方、N主語非出来事文が現れる文章のスタイルは“说明语体”（説明性の文体）であり、その語用的意味は“自然规律或社会公约”、すなわち自然法則や社会的慣習・常識のような客観的事実（命題）を人に説明するものと述べられているが¹⁹⁾、上記の例文はこのことを十分に裏づけていると言えよう。

5. まとめ

“一个N”は話者の頭の中で具体的にイメージされるモデルとしての事物であり、単独のNが表すような無色透明の中立的・客観的な、辞書的意味としての概念的物事ではない。“一个N”によって示される物事には話者の価値観が反映されており、つまり話者による性格づけがなされている。この性格づけ、すなわち具体化こそが、無色透明の物事（N）に色づけ・輪郭づけを行う個体化標識“一个”の働きなのである。ただ、出来事文の場合と異なり、現実世界や想像の世界に特定可能な個体としての物事が存在しないため、非出来事文の主語“一个N”は個体（individual）ではなく、あくまでも総称（generic）である。通常よく見られるN主語非出来事文のNが類に属する集合全体をその指示範囲としてみるとすれば、この種の“一个N”は類に属する集合から取り出した類の代表を指し示しており、「個別的類」とでもいうべき性質のものである。

“一个N”主語非出来事文は助動詞を用いたり、反語文や感嘆文として用いられたりするなど、話者の主観的評価・態度を表したモダリティ性に富む文である。

話者がある事物（類名）に対して主観的に評価を加えたり、認識を示したりする時、その類名を表わす事物のあるべき姿や道理、社会的な価値観の傾向などを述べるには、客観的意味あいのNよりも、主観的意味あいの“一个N”を主題として主語の位置に生起させた方が、話者が頭の中でイメージする事物についての叙述であることがより明瞭なものとなる。このように非出来事文における“一个N”主語の生起は文法（統語）規則に起因するものではなく、表現（語用）上の要請によるものである。

【注】

- 1) 李劲荣2013：一个NP表示一种社会价值取向或某个普遍道理。
- 2) 刘丹青2002 (2014, 621)、曹秀玲2005, 183、张斌主编2010, 801、李劲荣2013、陈振宇2017,81、日本中国語学会編2022, 378-379 (「総称的」の項目) 参照。
- 3) 张斌主编2010, 802、曹秀玲2005,184参照。
- 4) 陈振宇2017, 82：该通指句反应了说话者对该类事物的主观评价与态度。なお、李劲荣2013、方梅2019, 81にも同様の指摘がある。
- 5) “事件型”に相当する“一个N”主語文については雷桂林2020が詳しい。
- 6) “事态型”の“一个N”主語文の叙述する属性は、益岡2021のいう属性叙述文のそれよりも広範囲にわたるものであるが、[- event] すなわち非出来事であるという点では共通する。
- 7) Nには人を表す名詞が来ることが多いが、(16)(26)(35)のように無生物名詞の場合もある。
- 8) (18)は他の例文と異なり、“一个(一位)+N₁+的+N₂”の形式をとって、数量詞“一位”がN₁の“演员”にかかっているが、“演员”はやはり総称として働いている。
- 9) 假定複文を含む。なお、(23)は条件複文、(24)は接続詞の“如果”“要是”が生起することもある假定複文の例。
- 10) 例文中の語気副詞“还是”もまた“一个N”主語の生起可能性を高めていると言える。
- 11) 「というもの」について、北原保雄編2010『明鏡国語辞典(第二版)』の「もの(物)」の項に「(主に「…というもの」の形で)物事を抽象概念としてではなく、具体的な事物としてとらえていることを明示する。『年老いて初めて若さというものの貴重さを知った』とある。

- 12) 「ものだ」について、北原保雄編2010『明鏡国語辞典（第二版）』の「もの（物）」の項に「〔「…だ」の形で、活用語の連体形を受けて）（助動詞的に）本性、当然、当為などを表す。『だいたいにおいて、夏は暑いものだ』『見られないとなると、かえって見たくなるものだ』『苦労は買ってでもするものだ』』とある。
- 13) 曹秀玲2005, 186: “一量名”结构做主语时, 如果句子前面有“你想”、“你看”一类的插入性成分, 也可以提高无定NP做主语的可接受性。
- 14) 大河内1985 (1997, 59): 「一般に“是”の後の名詞が“一个”を伴うと、その名詞を中心に話が後に展開することが多い」
- 15) 本文に示した判断文における目的語Nに対する“一个”の付加傾向は文法（統語）規則に依拠する絶対的なものではなく、あくまでも表現（語用）上の傾向であり、次の例文のように下位概念である“名将”が“一个”を伴わずに生起する場合もある。
- 罗经纬也是名将，他不会不明白这个道理的。（BCC：燕垒生《天行健》）
（羅経緯もまた名将であるから、彼にこの道理が理解できないはずがなかった）
- この文では話者が主語の人物が客観的事実として“名将”という部類に属するとらえて表現しており、主語Nの帰属先を言う措定文となっている。
- 16) 大河内1985 (1997, 60) に次のような記述がある。「ネイティブの感覚によると、“他是个学生”や“他是个老师”より“他是个小丑”や“他是个唱戏的”の方がずっといいやすいという。いいやすいとは発話の機会が多い、その場面を想像しやすいということだが、これは属性の鮮明なものほど“一个”をつけやすいことを意味している」属性が鮮明なものとは特徴づけ、性格づけがなされているものと考えることができる。
- 17) 曹秀玲2005, 186: 也有相当一部分“一量名”结构采用复句的形式来表示情态。（かなりの部分の「一+量詞+名詞」構造もまた複文の形式をとって情態（モダリティ）を表す）
- 18) 橋本2014, 35では、“如果”や“要是”を用いた假定複文（橋本2014では「条件文」と称す）の従属節が判断文の場合、「主節に対する假定条件（引用者：橋本2014, 34では「仮定的状況」とも）を言う場合には“是（一）个NP”が用いられ、論理的に結論を導き出す際の前提条件を言う場合には“是NP”が用いられる」と指摘している。
- 19) “一个N”主語が李劲荣2013のいう説明性の文体に生起した場合、特に次の例文のように数

値について客観的に述べられた文では、“一个”の具える計数的意味がより明瞭なものとなり、(58)(59)のような話者の見解・意見を述べる“一个N”主語非出来事文とは“一个N”の指示性が明らかに異なってくる。

如果一个儿童每天喝500毫升奶，就可以补充600毫克钙，再辅以含钙丰富的蔬菜、豆制品、面包等，基本上可以达到摄钙标准。(BCC：人民日报2000年7月21日)

(一人の児童が毎日500mlの牛乳を飲んだならば、600mgのカルシウムを補充することができ、更にカルシウムを多く含む野菜、大豆製品、パンなどを補えば、ほぼカルシウムの摂取基準に達する)

中华书局的编辑举了一个例子：清代乾隆年间纂修的《四库全书》，有三千四百六十二种，共三万六千册，一个人如果一天读五册，需要不间断地读二十年才能读完。(BCC：人民日报1962年6月28日)

(中華書局の編集者が挙げた例によれば、清代の乾隆年間に編纂された『四庫全書』は3462種、合計3万6000冊あり、一人の人間が1日5冊読むとすると、全て読了するのに20年間欠かさず読む必要があるという)

【参考文献】

- 大河内康憲 (1985) 「量詞の個体化機能」、『中国語学』232号。(本稿は、大河内康憲 著『中国語の諸相』：53-74頁。東京：白帝社 (1997.3)。に拠る)
- 北原保雄 編 (2010) 『明鏡国語辞典 (第二版)』。東京：大修館書店 (2010.12)。
- 木村英樹 (2014) 「“指称”の機能 — 概念、実体および有標化の観点から」、『中国語学』261号、64-83頁。日本中国語学会。
- 日本中国語学会 編 (2022) 『中国語学辞典』。東京：岩波書店 (2022.10)。
- 橋本永貞子 (2003) 「非指示的名詞句における数量詞の働きについて」、『岐阜大学地域科学部研究報告』第12号、175-187頁。
- 橋本永貞子 (2014) 『中国語量詞の機能と意味 — 文法化の観点から』。東京：白帝社 (2014.1)。
- 益岡隆志 (2021) 『日本語文論要綱 — 叙述の類型の観点から』。東京：くろしお出版 (2021.11)。
- 雷桂林 (2020) 『中国語数量表現前置構文の意味機能』。東京：東方書店 (2020.3)。

- 曹秀玲 (2005) 《现代汉语量限研究》。延吉：延边大学出版社 (2005.6)。
- 陈平 (1987) 《释汉语中与名词性成分相关的四组概念》，《中国语文》第2期，81-92页。
- 陈振宇 (2017) 《汉语的指称与命题—语法中的语义学原理》。上海：上海人民出版社 (2017.8)。
- 方梅 (2019) 《汉语篇章语法研究》。北京：社会科学文献出版社 (2019.5)。
- 李劲荣 (2013) 《汉语里的另一类指成分—兼论汉语类指成分的语用功能》，《中国语文》第3期，238-250页。
- 刘丹青 (2002) 《汉语类指成分的语义属性和句法属性》，《中国语文》第2期。(本稿は、刘丹青著《著名中年语言学家自选集 刘丹青卷》：605-628页。上海：上海教育出版社 (2014.8)。に拠る)
- 徐烈炯 (1999) 《名词性成分的指称用法》，徐烈炯 主编《共性与个性 汉语语言学中的争议》：176-190页。北京：北京语言文化大学出版社 (1999.1)。
- 张斌 主编 (2010) 《现代汉语描写语法》。北京：商务印书馆 (2010.11)。
- 张伯江 (1997) 《汉语名词怎样表现无指成分》，《庆祝中国社会科学院语言研究所建所45周年学术论文集》：192-199页。北京：商务印书馆 (1997.7)。
- 张伯江 (2016) 《从施受关系到句式语义》。上海：学林出版社 (2016.4)。

【用例出典】(参考文献からのものは除く)

(BCC)：BCC汉语语料库，北京语言大学大数据与语言教育研究所

<http://bcc.blcu.edu.cn/>

(CCL)：CCL语料库检索系统，北京大学中国语言学研究中心

http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai

(白水社)：伊地智善繼 編『白水社中国語辞典』。東京：白水社 (2002.2)。

【付記】

査読担当の先生方より貴重なご意見、有益なご助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

